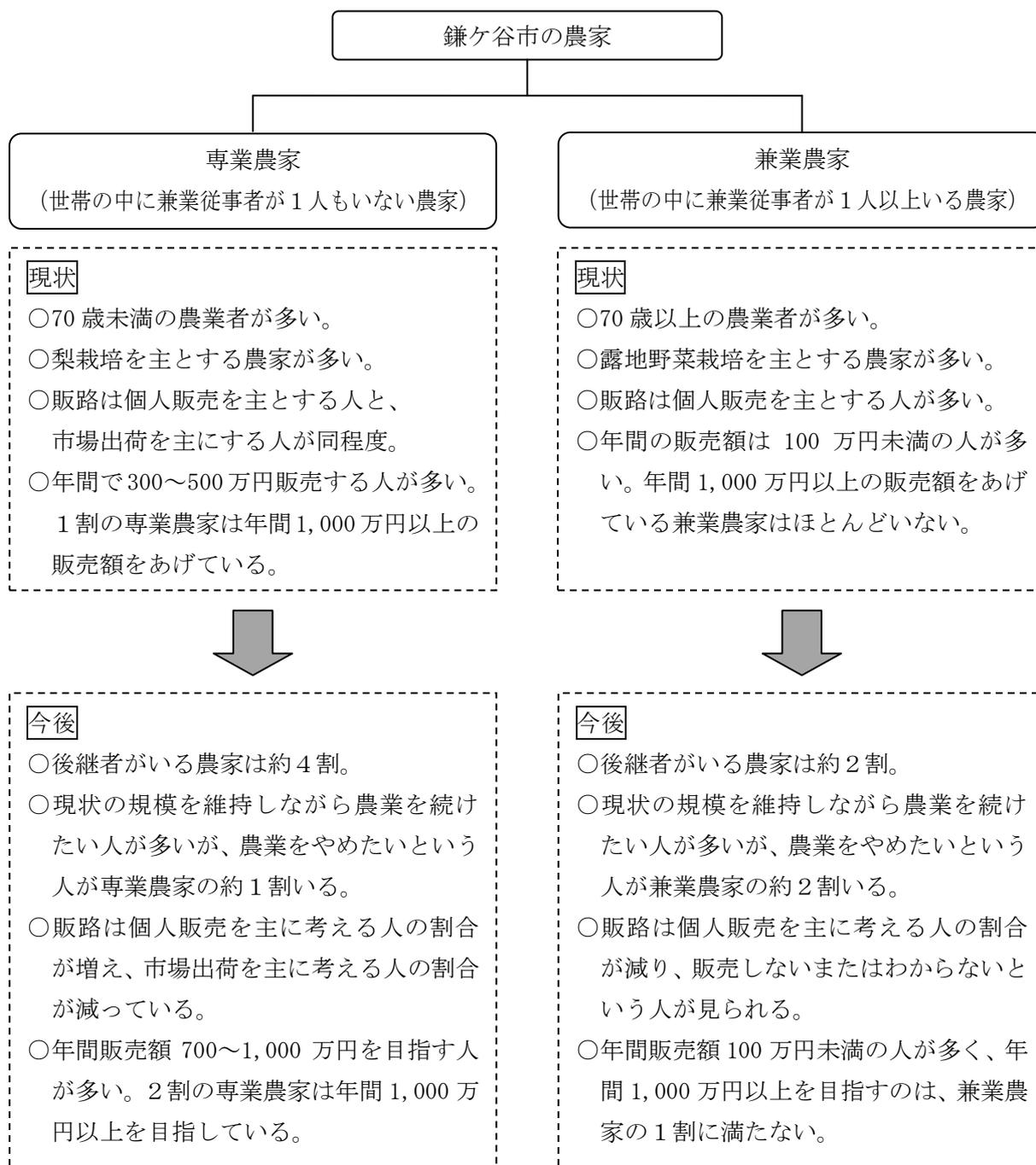


3 鎌ヶ谷市の農業の特性と課題の整理

(1) 農家の特性

農家アンケートより鎌ヶ谷市の農家について、専業農家と兼業農家で以下のような特性が見られました。



(2) 農業振興に向けた課題

①農家の減少を防ぐため、担い手の確保・育成が必要です。

本市は周辺の市と比較して、農家数や農家人口の減少の割合は平均8%減と少なく、農産物の販売額も比較的多い状況にあります。しかし、農家アンケートから、約5割の農家が5年前と比較して年間販売額が減少していると回答していることから農業経営が厳しくなっている状況が伺え、今後農業経営をやめたいという人も一部見られることから、今後も農家の減少が見込まれます。したがって、農業を安定して経営できる担い手の確保・育成が必要です。

②農家の経営安定のため、流通経路の確保と消費喚起が必要です。

農家アンケートから、現在の販売額が高くなるほど今後農業経営をやめたいという人の割合が減少し、現在の年間販売額が700万円以上の農家では後継者を確保できている割合ができていない割合を上回っていることから、農家が高い販売額を確保できる条件づくりが求められています。特に、今後の主な販売先として個人販売を考える農家が約4割と増えていることから、鎌ヶ谷市産農産物の流通経路の確保が必要です。

また、時代のニーズにあった農産物の生産と鎌ヶ谷産農産物のブランドイメージの向上により、市民の消費を喚起することが必要です。

③鎌ヶ谷市の魅力を維持するため、農地の保全と環境への配慮が必要です。

市民意識調査で、梨や豊かな自然に「鎌ヶ谷らしさ」を感じる市民が多かったことから、それらの基盤となっている農地を保全することは本市の魅力を維持することになります。また、市街化区域における緑地も、都市住民の生活にやすらぎを与えることや、災害に備えたオープンスペースになることから、国の食料・農業・農村基本計画における都市農業振興の観点上保全が求められています。

したがって、今後も農地を確保していくとともに、環境への配慮も必要です。

④市民の農業理解を深めてもらうことが必要です。

市民意識調査で、市民の約5割が市の産業分野の振興における施策の中で「農業の振興」や「農業への理解とふれあいの拡大」が重要であると回答しています。したがって、鎌ヶ谷市産農産物の消費促進や農地の保全にあたっては、より多くの市民に鎌ヶ谷市の農業の重要性を理解してもらう必要があります。このことは、国の食料・農業・農村基本計画において位置付けられています。